

カタロにて
ブリザードフラワー シェリー

日時： 5月 16日(月)・28日(土)
13:00~15:00

体験： 3,000円(全て込み)

*鏡のまわりにお花をうすめた、フラワーミラーをつくります。

*ギフト、ブーケ等オーダーお受けいたします。

お問合せ・お申込み:

片岡 090-7267-4498
HP <http://p-f-cherie.petit.cc/>

カタロにて
韓国語講座

日時： 5月 9日(月)・16日(月)
10:00~11:30

会費： 3,500円

講師 邊 美仙
韓国ソウル出身。ソウルにて誠信女子大を卒業後、筑波大学の大学院修士課程を修了卒業。

お問合せ・お申込み

篠崎 080-5543-7489

ぽちゃぽちゃミセスの現場体験記

先日、瓦おろしのお手伝いに行ってきました。

朝は、気合充分！ 2階から安全に瓦を下ろす為に、大工さんが瓦の滑り台を作ってくれました。瓦を一枚一枚滑らせ、大きなゴミ箱にほうり投げます。ドスン、バリバリ〜、ガッちゃん〜！！凄いな音と埃。ご近所の方が洗濯物を干されていて、「すみません。」と声をかけたら、「大丈夫よ！」とってくださいました。有り難いことです。いつまでも大震災のことを引きずっている訳にもいきません。直せるところは直して、早く今までも生活をしたいものです。そういう思いが詰まった「大丈夫よ！」の声に聞きました。昼休みも終わる頃、空が真っ暗に！大工さんに「雨が降ってきそうだから、早く屋根にシート被せてください！」とお願い。そのうち、風が吹き、雨が降ってきました。屋根の上で大きなシートと戦う大工さん。手伝おうと足場を登って見ましたが、挫けました。大工さんが、シートと一緒に飛ばされそうな雨と風。「胴縁とって〜」との声に、ブルーシートの中から大工さん発見！「胴縁ってなんですか？」と、何も知らない私。どうにかシートをかぶせ終わりそうになった頃、資材を取りに行っていた社長が到着。シートをかぶせ終わってホッとして、空を見上げたら、もう明るくなっていました。瓦下ろし再開。1000枚以上の瓦を下ろし終わった頃には、もう、ヘトヘト。声もでなくなりました。次の日は全身筋肉痛でした。

「大工とは、大いに工夫するだね！」と社長の言葉にぴったりの大工さん。本当は、屋根やさんに瓦を下ろしてもらったところ、大工さんがやってくれて、社長と私でお手伝い。雷と言うアクシデント付き。でも、楽しい1日でした。現場で働く人の姿、お客さまの声を直接感じ、とても気持ちが充実しました。また、瓦下ろしの現場があるそうです！どんなことになりますか？楽しみです。

動くからと休憩に甘いものをほおばるぽちゃぽちゃミセスでした。



大工さんが作ってくれた
瓦下ろし用の滑り台

カタロ通信

VOI.159

2011年 5月号

<http://www.e-kitazawa.com/>

北澤工務店

301-0855
龍ヶ崎市藤ヶ丘 7-1-7
TEL: 0297-60-1333
FAX: 0297-60-1311
e-mail: info@e-kitazawa.com

カタロ

301-0855
龍ヶ崎市藤ヶ丘 7-1-12
TEL: 0297-60-1666
閉館日: 水曜日
e-mail: kataro@e-kitazawa.com

甘味café 空〜くろ〜

301-0855
龍ヶ崎市藤ヶ丘 7-1-12
TEL: 0297-63-0730
定休日: 水曜日
e-mail: kuu@e-kitazawa.com

財団法人性能保証住宅登録機構加盟建設業許可茨城県知事(般-17)第22696号 宅地建物取引業者茨城県知事免許(3)第5344号

奈良県・山梨県から救世主が来てくれました。



余震と戦いながら、足場の無い屋根の上での作業は大変危険だったと思います。テキパキと仕事をこなして頂き、14棟の屋根が着手できました。(5/1現在) 本当にありがとうございます。まだのお客様、順番にお伺致します。待っててくださいね。

ぽちゃぽちゃキッチン

ポテトとゆでたまごのマヨネーズ焼き

簡単
クッキング!



作り方 クッキングシートの上に、冷凍のフライドポテト、ゆで卵(4等分に切り)を乗せ、Aを混ぜてかけて、200度のオーブンで6~7分焼く。

簡単ですみません。生活クラブ生協のホームページにかぼちゃとゆで卵のマヨネーズ焼きが載っています。美味しそうなので作ろうと思いましたが、かぼちゃがなく、ジャガイモで代用しようとしたのですが、茹でるのが面倒で、冷凍のフライドポテトを使いました。からしは粒マスタードを大さじ2となっていたのですが、チューブのからしを使いました。2歳の娘がほおぼって食べていました。大人の方は粒マスタードを使って！お弁当のおかずにも！マヨネーズのちょっと酸っぱい感じが牛乳で和らいぎ、ちょっと入れたからしがアクセントになっています。上に乗っているのは、青のりです。クッキングシートを使ったので片付けも簡単！作ってみてね！

ぽちゃぽちゃミセスこと黒木直江でした。

主な材料

冷凍のフライドポテト 一握り

ゆで卵 2個

A: マヨネーズ大さじ4・からし1.5掬

牛乳大さじ1

北澤工務店&甘味Cafe空〜くろ〜から

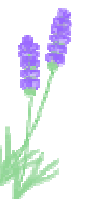
5月 空のミニショップは・・・

『ハーブな時間』

〜ハーブ小物

『アトリエ フィッカス』

〜布バッグ類



龍ヶ崎市 1様邸完成しました。



真壁作りの明るいリビング。大工さん手作りのテレビ台と壁面はコーラルストーン（珊瑚や貝の化石の入った大理石）でアクセント。漆喰の壁とシンゴンの床、一段上がった和室。自然素材の無添加使用。



外壁も漆喰を塗りました。屋根は自然石（クールフグレー）・玄関ポーチは自然石（クールフブラウン）を使用。



冷蔵庫の目隠し用棧が、キッチンのアクセントに！



キッチンからダイニングとリビングを望んで。リビングの大きなサッシは特注品です。



2階和室～洋室～ウォーキングクローゼット
どこからも使いやすく！ 壁は漆喰を塗りました。



梁が見える2階の洋室



玄関床も自然石（クールフブラウン）を使用。レトロモダンな照明がお出迎え！



玄関収納もあります。便利ですよ！



廊下から和室の入り口がもう階段！



お部屋の雰囲気に合わせてオリジナルの建具



おさむのひとりごと



ひどい余震が続く毎日です。いかがお過ごしでしょうか。

『東日本大震災』のことを書こうと思うんです。

でも、でも、余りにも規模が大きく、余りにも深く、余りにも重たい……。ぼくが云々書けるレベルではない。全てを失ってしまった人を思えば、ぼくの体験していることなんて微々たるもの……。そんな風に感じてしまうと、全然言葉が浮かばなくなってしまう。

この『東日本大震災』には、ひとりひとりの『東日本大震災』があったと思う。ひとりひとりがいろんな体験をしているんだ。だから、その立ち居地を感じたこと、わたし自身が体験したことが真実なんだ。20年後、30年後、それを子孫に伝えていくんだ。そう思い返して、『ぼくの東日本大震災』の途中経過を書いてみたいと思います。

《竹田さんの言葉》

縁と縁がつながって、奈良から瓦が届きました。その会社、『タケダ』さんのでっかいトラックが事務所に横付けされた時の喜び!!! 伝わるでしょうか。その数日後にはかわらぶき職人の植田さんチーム、森田さんチームが8時間かけて龍ヶ崎に到着しました。いよいよ屋根瓦崩落現場の修復が始まりました。

この瓦や職人の段取りをしてくださったのが、前回は紹介した竹田さんです。竹田さんは奈良県の瓦組合の理事長もされている。職人を派遣する時にいつも問題になるのが『手間賃』です。平時の1.5倍の賃金となるのが常です。でも今回は震災なんです。そのことにぼくも違和感を感じていたし、竹田さんも同じだった。そして今回来てくれた職人さん方にもそのことを伝えてくれた。『君ら、組合で出向となれば1.5倍の手間賃になるけれど、きたざわのところはいつもと同じ。それでも行くか?』と。彼らは快諾してくれたんです。その時に竹田さんが言った言葉。

『このままでは日本の瓦がなくなってしまう。ましてこんな時に1.5倍も2倍も手間賃上げて経費もかけてやったらなお更のことや。君らきたざわの現場のために行くんじゃない。日本の瓦のために行くんや』



このお話を聞いた時、ぼくは身震いました。

《工事が完了したO様》

O様のお家を新築させていただいたのは、今から26年前。その後年末アフターサービスや日頃のメンテナンスですーっとお付き合いしてきました。昨年ご主人を亡くされ、ひとり暮らしをされているところに今回の震災です。子供たち家族は釜石に住んでおり、甚大な被害を被ったために龍ヶ崎に来ることはできません。屋根瓦が崩落し、ひとり暮らしの夜に余震の連続。恐くてお風呂に入れない毎日が続いていました。とにかく早く修復してあげたい!!!

そのO様のお家、奈良のかわらぶき職人の手によって、地域では一番に復旧されました。その時にO様、目に涙を浮かべてこんなことをおっしゃってくださいました。

『きたざわさん、あたしはもうこんなおばあちゃんになっちゃいましたけどね、しんせつにしてくださいって、……ありがとう。きたざわさんのおとうさんのじだいから、…、26年間おつきあいしてきて、ほんとうによかった……』

ぼくが存在を必要としてくれている人が、いる。

《父の姿》

今回の震災で屋根瓦が崩落してしまったのは、ほとんどが父の時代の建物で20年以上前の建物です。今回の震災で無残な姿となってしまった自分が作ってきた家の数々を、父はどれほどのやるせない気持ちで見つめていたことか。特に地元での信頼が厚かった父は、軒並み崩れてしまったことに自責の念を抱いているかのようにした。

その中の一軒K様邸（築30年）は、父の父、ぼくにとってはお爺ちゃんの時代から縁があるお家です。今は二人暮らしのお家、やはり棟瓦が全部崩落してしまいました。連日瓦の養生に飛びまわっていたぼくたちですが、まだK様邸まではまわる事ができなかった時のこと。75歳になる父が地下足袋を履き、屋根に上って作業をしてくれていたのです……。

危なっかしいったらあやしめない!と思う反面、ぼくはその姿に、感動しました。『自分の娘に振り袖を着せたような家づくり』をカラダで教えてくれたんです。屋根やさんが来れないから仕方ないじゃないか、風が吹いたんだからシートが飛んじゃってもしょうがないじゃないか、余震がすごいんだから屋根なんて危なくて上れないよ、瓦が崩れたって仕方ないよ。そんな言い訳はいくらでもある。

でもこの家、自分が作った人生の足跡なんだ。人生そのものなんだ。そのくらいの気持ちでつくった家なんだ。そしてその屋根の下には不安で不安で眠れないお客様がいる。自分にできることを、なんとかかして、なんとかかしてやるんだ。。屋根上地下足袋姿の75歳のおやじ。すごいね。

《稲川さんとあんちゃん》

3月11日の震災の翌日朝早く携帯電話が鳴りました。いつもセルロースファイバーの断熱工事や竣工時の完成クリーニングをお願いしている稲川さんです。

『しゃちょう、わたしね一考えたんですけど……こんな大変な時にね、…、仕事やってる場合じゃないよねー。わたしにできることがあると思うんですけど……とりえあずこれからそっちに行きますから、…、シート掛けでも何でも手伝わせてください。』

それから2日間、稲川さんはまるきりボランティアで馴れない屋根に上り、一所懸命シート掛けをしてくれました。ほんとうに頭が下がります。

ぼくには学校の教員を務める兄貴がいます。いまでも『あんちゃん』って言って慕っています。そのあんちゃん震災後自宅待機となり、土日も重なった。『おさむ、手伝うから』って言ってくれたんです。延べ4日間も!!!、骨身惜しますまるで瓦職人のごとく働いてくれた。すごいなあ、ほんと。

こんな時にその人の真価が現れるんですね。順風の時、立派なことを言うことは誰でもできる。美しい立ち居振る舞いをすることは誰でもできるんだ。困難に直面しときにその人の真価が問われる。研修で学んだことをそのまま娑婆で体験しています。

この震災で、むちゃくちゃ嫌な体験、悔しい体験をしました。むちゃくちゃうれしい体験、感動の体験をしました。毎日のように涙を流しました。その様子を毎日ブログに書き込んでいますので、よろしかったらご覧ください。『おさむのブログ』で検索してください。

まだまだ震災復旧は始まったばかり。こんな時こそ力を合わせ、一緒に乗り越えて行きましょう!!! 更に素晴らしい世界が必ずある。

